

申談事。

一、藏納・登米員數、春中相極、諸代官可申渡。加州三月、四月、越中・能州内海四月・五月・六月可爲出船。其以後出船破損之斷立間敷事。付、積荷狀之事、代官手前より念を入、出船之刻算用場に可相斷事。

一、同登米、海上道中かんだめしの事、奥村因幡守以相談、奉行人遣當年相極、向後遂算用べく事。付、敦賀より海津まで駄賃、年々聞届可令勘定事。

一、同登米若船破損、米改奉行人之事、時々因幡守以相談可申渡事。

一、諸代官より上り金銀之事、算用場より金銀奉行方に替付相添可渡事。

一、諸代官殘銀、米、在々手前々々利足定之事。

銀 子 二割

米 二割半

堂形入未進銀 二割

一、吉初銀、三月中春夫銀、五月中秋夫銀、年切代官より可差上。若右日限於相延者、利足同前之事。

一、登米拂金、年切に代官より可差上。但、斷於有之者用捨遂吟味、明春中可相延事。

一、諸代官より以誓詞斷申儀有之間敷候。遂穿鑿相極、其上帳面記置可指上事。

一、知行割符之事、井内清兵衛・栗田與右衛門・和田八右衛門・下村兵四郎申付候。所附村數多無之物成を以草高を平均、物成如定納所候之様可令相談也。右四人雖申付、面々存寄之通於有之者、不及遠慮可申談事。

一、明知以下代官付之事、右知行割四人之者申渡、其近所之代官手寄々々可申付。若新代官に於申付者、因幡守可令相談事。

一、切米・扶持方并諸職人下行米割符之事、人々應奉公之品、或は依年藏所遠近可有相違。會所之者吟味、替付之上を以可書出也。不在國時分者、會所之者替付、安房守・山城守可爲裏判事。

一、見立檢地之事、物成定候上は、無故不遵様諸代官檢地奉行にも申付候條、可成其意事。

一、登米并地拂・下行口米定之事。

江沼・能美一石に付 四升

石川・河北同 四升五合

羽咋 同 五升

鹿島 同 五升五合

越中 同 五升五合

地拂 同 三升

下行 同 二升

堂形入米 同 二升

藏返し 同 但給人分 一升五合

一、諸代官下代敷定之事

高三千石より下 一人

同四千石より七千石 二人

同八千石より一万千石 三人

同一万二千石より一万七千石 四人

同一万八千石より上 五人

但、右下代敷多少、代官所隨村敷、彌吟味を以可相極事。

一、諸百姓出銀、家一間に三匁宛たるべし。右之員數猥不

可有之事。

一、算用場出座之事、日出に出、日暮に可罷歸事。

一、算用之事、物頭者勿論、小算用之者下々迄、作言仕儀堅可令制禁事。

一、算用場に用人之外出入一切可停止事。

右條々不可違背者也。

寛永十四年閏三月三日

宮城 采女 一通

脇田 九兵衛

奥村源左衛門

青木 助丞 一通

一一 料紙・麻苧買調之儀御定

條々

一、鳳至・珠洲兩郡收納方、無滞可入念事。

一、中折料紙上中下五百丸可相調也。會所に斷、瀬尾權兵衛・藤本彦左衛門・松岡作兵衛三人之内、一人爲相奉行、かね小拂奉行方より因幡守裏判を以、右代銀請取買調料紙請